

平成30年度

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価の結果報告書
(平成29年度事務事業対象)

平成30年11月
宇土市教育委員会

—目次—

I 点検・評価制度の概要	
1 経緯	1
2 目的	
3 対象事業の選定方法	
4 学識経験者の知見の活用	
5 教育委員会としての今後の方向性	2
II 点検・評価の結果	3
事業名一覧	4
1 学校一般経費（ICT関連経費）	5
2 多子世帯給食費補助事業	6
3 教育力向上支援事業	7
4 コミュニティ・スクール事業	8
5 語学指導委託事業	9
6 地域学校協働活動推進員配置事業	10
7 人材活用事業	11
8 放課後子供教室推進事業	12
9 史跡宇土城跡保存整備工事	13
10 市内重要遺跡保存活用事業	14
11 小西行長関連事業	15
12 大太鼓活用事業	16
13 宇土市歴史的資料保存活用事業	17
14 図書館蔵書充実事業	18
15 給食センター施設整備事業	19
16 地域教育力活性化事業	20
III 教育委員会の活動状況	21
1 委員会議の開催状況	24
2 教育総合会議	24
3 その他の活動状況	
宇土市教育委員会名簿	25

I 点検・評価制度の概要

1 経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行うことが義務付けられました。

2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、事務局職員を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し、中立的な意思決定を行うものです。

事務の点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 対象事業の選定方法

点検評価の対象事業は、行政の政策や施策、事務事業を有効性、効率性などの視点から一定の物差し（指標）によって客観的に評価し、事務改善や分かりやすく透明性の高い市政運営につなげていくために実施された「宇土市事務事業評価」の評価体系に準じ、教育委員会が実施した全事務事業の中から、事業費が多額にわたるもの、社会的関心が高いものなど、事業の在り方を検証する必要性が高いと判断される16事業を選定しました。

4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、担当課が行った点検・評価（自己評価）の結果について、学識経験者を含む4人の外部評価委員に、対象事業についてのご意見をいただきました。

外部評価委員名簿

氏名	職業等	委嘱期間
田口 剛	元教師	委嘱の日から平成31年3月31日
伊勢 聰	放課後子ども教室 コーディネーター	//
高田 勝廣	走潟公民館長	//
小崎 真由美	市P連副会長	//

5 教育委員会としての今後の方向性

担当課自己評価に対する外部評価委員のご意見等を踏まえ、最終的に教育委員会としての今後の方向性を下記5つの中から選択しました。

拡充	事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
維持	概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
要改善	現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
廃止	事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 点検・評価の結果

事業名一覧

	事業名	担当課
1	学校一般経費 (ICT関連経費)	学校教育課
2	多子世帯給食費補助事業	学校教育課
3	教育力向上支援事業	学校教育課
4	コミュニティ・スクール事業	学校教育課
5	語学指導委託事業	学校教育課
6	地域学校協働活動推進員配置事業	生涯活動推進課
7	人材活用事業	生涯活動推進課
8	放課後子供教室推進事業	生涯活動推進課
9	史跡宇土城跡保存整備事業	文化課
10	市内重要遺跡保存活用事業	文化課
11	小西行長関連事業	文化課
12	大太鼓活用事業	文化課
13	宇土市歴史的資料保存活用事業	文化課
14	図書館蔵書充実事業	図書館
15	給食センター施設整備事業	給食センター
16	地域教育力活性化事業	中央公民館

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	学校一般経費 (ICT関連経費)	担当課	学校教育課
事業目的	情報活用能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力といった社会で生きるために必要な力を高める手段として, ICTは今日の教育的課題を解決するため必要である。また, ICTの活用により, 教員の指導力の向上につながり, 教育活動の質の向上につながることを目的とする。		
事業内容	教育委員会では, パソコン教室のインターネット接続に始まり, 教育イントラネットの整備, 学校のICT環境整備を積極的に推進する。またパソコン教室のデスクトップ端末の老朽化を契機に, 平成26年度は網田中学校に, また, 平成27年度は全小学校に無線LAN環境整備を行い, 一部ではあるがタブレット端末を導入した。平成28年度から校務用端末にシンクライアントを整備した。		
29年度の進捗状況	小学校全校(7校)のICT環境整備に当たり, 端末調整, 無線LAN環境整備, トラブルサポート, 導入端末の修理費用, 予備機の準備等を含め, これに係る導入経費を全て含むサービス使用料として, 月額で使用料を支払うサブスクリプション契約を行い, 特定期間内の使用権に対して対価を支払った。 この方式により資産を持つことがないため, 端末数やライセンス数を管理する必要がないことから, 今後はOSのサポート期間終了問題等にも支障なく対応できる。		
課題・問題点	無線LAN環境整備が鶴城中, 住吉中のみされておらず, 平成30年度で整備する予定である。また, 学習用サーバー・教務用ソフトの導入を平成32年度から行うため, 平成31年度より整備を行う予定である。教職員の指導力向上のため, ICT支援員による教職員のICT指導を行う。		
予算額・決算額	H27予算額 18,806 千円 H28予算額 28,665 千円 H29予算額 29,914 千円	H27決算額 12,133 千円 H28決算額 28,663 千円 H29決算額 29,794 千円	
担当課 自己評価	平成29年度は整備等ができず, 平成30年度で無線LANの整備を行うこととなった。今後はハード面のみでなく, ソフト面の充実を図っていききたいと思う。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育, 情報活用能力は大変重要である。同時に情報の正しい利用, マナー等含めてこの事業の費用対効果を期待します。 ・特定期間内とは何時から何時までか? ・今の時代, 情報活用能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の必要性は言わずもがなである。 ・今後は「拡充」と考える。 ・費用はかかるが, 充実を図ってほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・特定期間内とは時間ではなく, 56カ月間という期間である。(平成27年8月～平成32年3月) ・今年度, 中学校にタブレットを導入し, 来年度は小学校の予算を計上する予定である。また, 先生方のサポートとしてICT支援員の設置も考えており, 先生や生徒にも広く使用してもらえよう努めていきたい。 			
教育委員会としての 今後の方向性	<p style="text-align: center;"> 拡充 ・ 維持 ・ 要改善 ・ 廃止 </p>		

※評価判定

拡充 … 事業規模・内容を, より拡大・充実し継続すべき事務事業

維持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し, 規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃止 … 事業目的・活動内容等が, 効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	多子世帯給食費補助事業	担当課	学校教育課
事業目的	多子世帯の保護者の経済的負担を軽減することにより、子育て支援を推進することを目的にする。		
事業内容	子育て支援を推進するため、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減することが求められている。学校教育法の規定に基づく保護者が負担すべき学校給食費の第3子以降分について無償化を行う。		
29年度の進捗状況	本事業の補助対象者である児童・生徒187人に対して給食費の補助(無償化)を図ることで多子世帯の保護者の負担軽減に取り組むことができた。		
課題・問題点	平成27年度から、国の経済対策補助金を財源として本事業を行ったが、平成28年度より市の一般財源で行っているが、本事業を継続して行っていくためには、国の補助事業等の財源の確保が必要となってくる。		
予算額・決算額	H27予算額 7,873 千円 H28予算額 7,888 千円 H29予算額 10,059 千円	H27決算額 6,775 千円 H28決算額 7,539 千円 H29決算額 9,113 千円	
担当課 自己評価	義務教育中の児童生徒が3人以上いる保護者にとって、小学校の児童においては、約43,000円/人、中学校の生徒においては、約50,000円/人の1年間の給食費を無償化にすることにより、多子世帯保護者の経済的負担軽減を図ることができた。またアンケートの結果も経済的負担が減って非常に助かると回答した世帯が86%であることがわかった。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を推進する上からも効果的な事業である。確実な財源確保に努めて欲しい。 ・今後は「維持」と考える。 ・一定以上の収入がある家庭には必要ない気もする。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・年々予算額が増加している。必要な事業であり、財源を確保するため、寄附金や国の予算確保に努めていきたい。 			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	教育力向上支援事業	担当課	学校教育課
事業目的	教職員の指導力向上や児童生徒の学力向上を図るため、指導員を幼稚園及び学校に派遣し、授業改善に向けた指導助言を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員による定期的な授業改善指導訪問を通して、教職員の指導力向上を図る。 ・学習の基礎となる学習訓練等については、教職員の指導力向上に効果が表れており、授業における学習指導の充実を図る。 		
29年度の進捗状況	幼稚園及び小中学校の授業参観・個別指導回数は430回であり、小中学校の教職員を対象とした中堅教員養成講座の実施を行った。		
課題・問題点	成果の指針が課題である。今後は管理職(校長・教頭)にアンケート等を行い、教職員の資質向上の成果を見る。		
予算額・決算額	H27予算額 3,974 千円 H28予算額 4,256 千円 H29予算額 4,408 千円	H27決算額 3,775 千円 H28決算額 3,948 千円 H29決算額 4,020 千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎となる学習訓練等については、指導力向上の取組に効果が表れており、授業における学習指導の充実につながってきている。 ・小中学校の教職員を対象とした中堅教員養成講座は、教職員に学校における組織体の一員としての自覚が高まり、校長の意を体した学校の核として取組ができるような人材の育成に繋がってきていると考える。 		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上のためにも有効であると思われる。校長、教頭等による各職員に対する適切な評価を期待する。 ・今後は「維持」と考える。 ・教職員の指導力の向上は、重要な課題であり、指導員による適切な指導助言を今後も続けてほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・今後は校長や教頭等、管理職員の評価を行っていきたいと思う。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	コミュニティ・スクール事業	担当課	学校教育課
事業目的	保護者・地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となり、より良い教育の実現に取り組むもの		
事業内容	学校運営協議会を開催し、委員から学校運営や教育活動等に多様な意見をいただき、学校目標の共有化及び学校評価を踏まえ、改善や見直しを図る。 また、コミュニティ活動の実践により、学校の教育活動の活性化を図る。		
29年度の進捗状況	市立小学校5校・中学校2校で学校運営協議会を設置(網田地区は小中共同設置)し、会議を開催した。学校とボランティア等の地域人材とがつながり、子どもたちが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを地域全体で考えることで、学校教育活動の活性化、子どもたちの生活改善、学力向上に寄与することができた。		
課題・問題点	学校運営協議会が未設置の宇土小学校、宇土東小学校、鶴城中学校での事業実施及びスムーズな事業開始が課題である。		
予算額・決算額	H27予算額 1,205千円 H28予算額 1,148千円 H29予算額 1,135千円	H27決算額 880千円 H28決算額 980千円 H29決算額 881千円	
担当課自己評価	コミュニティを構成し実践することにより、学校・家庭・地域社会の連携強化を図り、効果的な情報収集と発信を行った。それにより、学校運営協議会を核とした学校・家庭・地域社会のネットワークの強化に繋がってきている。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域での人材、教育力等を学校運営、教育活動に取り入れることは有効であると思われる。予算額と決算額の差の開きは？ ・今後は「維持」と考える。 ・学校・家庭・地域社会の連携が充実され、事業の深まりが望まれる。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい教育を推進するためには、学校、家庭、地域社会の連携強化をさらに図る必要がある。事業の目的が達成できるよう、各学校のニーズに応じた支援を行うとともに、全小中学校で学校運営協議会を設置し、事業実施ができるよう取り組む。 ・熊本版コミュニティ・スクールを実施している3校(宇土小・宇土東小・鶴城中)について、コミュニティ・スクールが実施できるよう継続して取り組んでいく。 			
教育委員会としての今後の方向性	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">拡 充</div> ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	語学指導委託事業	担当課	学校教育課
事業目的	・外国語指導は、外国語指導助手として雇用しているALTと連携して、小中学校で外国語の授業の補助を行うことで、よりきめ細やかな指導の実現を目的とする。 ・日本語指導は、宇土市立小中学校に在籍する児童生徒で、日本語が十分に理解できない外国からの帰国児童生徒及び外国籍児童生徒が不安なく学校生活を送ることを目的とする。		
事業内容	・外国語指導は、宇土市での外国語指導の実績がある市内の業者へ委託して、外国語指導助手として雇用しているALTと連携して、小中学校で外国語の授業の補助を行う。 ・日本語指導は、県内での日本語指導の実績がある団体へ委託して、該当児童生徒が在籍する学校で個別指導を行う。		
29年度の進捗状況	・外国語指導は、外国語指導助手を市立小学校7校へ計1,462時間派遣した。派遣先の学校現場では、その指導内容や指導力について非常に高い評価が得られた。 ・日本語指導の平成29年度対象者は、鶴城中学校2人、宇土小学校2人でいずれも外国籍の児童・生徒だった。1日2時間、週2回を基本に講師を派遣した。		
課題・問題点	・外国語指導では、平成32年度から実施される次期学習指導要領で小学校での外国語学習が拡充されるのに備えて、平成30年度からの2年度を移行期間として外国語の授業を前倒して増やす予定であり、外国語指導助手に求められる役割が大きくなる。 ・日本語指導は、対象人数が増加した場合や多国籍化した場合の対応が課題である。		
予算額・決算額	H27予算額 4,694千円 H28予算額 4,476千円 H29予算額 4,639千円	H27決算額 4,269千円 H28決算額 4,103千円 H29決算額 4,476千円	
担当課自己評価	外国語指導、日本語指導ともに、学校現場からの評価は高く、事業の目的はある程度達成できていると思われる。両事業ともに今後の必要性がますます高まることが予想され、今後も更なる充実が必要である。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
・本事業の成果を期待する。また日本語指導は、国際化が進むことや帰国子女なども予想されるのでこの事業を進めて欲しい。 ・今後は「維持」と考える。 ・今後の必要性が高まることも予想されるため、充実してほしい。			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
・外国語指導は、学校の教員やALTとの連携を強化して、児童生徒の市の英語教育がより充実するように活用していきたい。 ・日本語指導は、平成29年度に施行した事業実施要綱の規定に基づき、日本語指導が必要な児童生徒の転入があった際は、適切に事業を実施していきたい。			
教育委員会としての今後の方向性	拡充 ・ 維持 ・ 要改善 ・ 廃止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域学校協働活動推進員配置事業	担当課	生涯活動推進課
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる体制の構築 ・地域の活性化や学校を核とした地域づくり ・地域住民(学校支援ボランティア)の知識や経験を生かす場の提供 ・教員の子供と向き合う時間の確保 		
事業内容	<p>鶴城中学校区及び住吉中学校区内の小中学校(2中学校6小学校)を対象に、地域住民から学校支援ボランティアを募り、環境美化・本の読み聞かせ・通学路の安全指導・学習支援などのボランティア活動を実施する。また、市内7地区に地域学校協働活動推進員を配置し、学校からの要請に応じてボランティア活動を行うことで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を支援していくものである。</p>		
29年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座(全2回) ・地域協議会開催(全4回) ・本の読み聞かせ支援(167回)、校内環境整備支援(5回)、通学路の安全指導(学校登校日通常実施)、学習支援(丸付け(年間)・道徳講話(1回)・体験学習(34回)) 		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業のさらなる啓発と情報発信 ・学校支援ボランティアの確保 ・地域学校協働活動推進員の選定及び確保 		
予算額・決算額	H27予算額 1,659千円 H28予算額 1,526千円 H29予算額 495千円	H27決算額 1,571千円 H28決算額 1,513千円 H29決算額 315千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア(地域住民)の知識、経験を活かす機会を設けることにより、地域の活性化・学校を核とした地域づくりへとつなげる契機になってきている。現在は学校からの依頼を受けて実施しているが、今後は、新たな「地域学校協働活動」として、地域住民・ボランティア側から、学校への積極的な関わりが持てるよう、支援していきたい。 ・学校支援ボランティアの実践が子供たちの心に届き、ボランティアの心を育むのに役立っている。 		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度から予算が急に減った訳は？ ・今後は「維持」と考える。 ・ボランティア養成講座は、いつ行われているのか、知りませんでした。地域・保護者の方たちに、更に知ってもらえるといいかと思った。(学校で子ども達にプリント配布する等) ・推進委員の研修を実施することが大切である。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>現在はボランティアの養成講座のチラシを、学校や公民館等に配布しておりますが、今後は広報紙によるボランティア養成講座の周知(読み聞かせ講座は今年度周知予定)も行っていきたいと思っております。また、推進員研修については、推進員同士の情報交換が行えるような研修の場を設定していきたいと思っております。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	人材活用事業	担当課	生涯活動推進課
事業目的	様々な知識や技術を持つ地域の方々を募り、学校や団体、地域に派遣し、伝統・文化の継承や世代間の交流等を行うことによって、地域の教育力の向上と生涯学習活動の推進を図る。		
事業内容	生け花や絵手紙、昔遊び、太鼓演奏、着付けといった伝統文化分野を中心とし、市民から要望のある分野での専門知識を持つ方で指導を依頼。宇土市小中学校や各地区公民館など、数多くの公共施設へ指導者を派遣し、世代間交流などを図る。		
29年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者登録者数(講師32人・補助講師32人・団体11団体) ・申請件数25件、派遣実施日38日、派遣指導者延べ132人、利用者数延べ1,319人 ・広報やホームページでの、指導者・利用の募集 ・平成29年度の実績をまとめ、冊子を作成。 		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の方へのより一層の事業の周知 ・伝統芸能分野を中心とした登録指導者の高齢化による後継者等の確保 		
予算額・決算額	H27予算額 208千円 H28予算額 209千円 H29予算額 209千円	H27決算額 151千円 H28決算額 131千円 H29決算額 117千円	
担当課自己評価	指導者や受講者双方から建設的な声をいただき、伝統や技術、生きがいを与える機会となっている。地域教育力の向上と生涯学習の推進を図るための、重要な事業のひとつとして認識している。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化分野を中心に地域の人材を利用することは素晴らしいと思うが、本格的には時間数や場所などで不足をきたし奥深い伝統文化継承には不足するのではないかと。地域におけるクラブチーム(小学生)と同様に社会教育の場で文化活動を推進してはどうか。 ・利用者が増えるよう頑張してほしい。今後は「維持」と考える。 ・小学校で太鼓に触れる機会があり、子どもも近くで見ても触れることができ、大変貴重な経験となった。定期的で開催されるようになると、発表の場を設けて楽しみが増えるといいと思う。 ・人材の育成(指導者として、子どもとのかかわり方など)が必要と思う。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく地域の人など、様々な人の利用を想定しているため、現時点では部活動のような利用は難しいと考えます。 ・人材の育成についてですが、毎年6月に事前研修会というものを行っています。今年度は、社会教育の現状について講演をしていただきました。今後の研修の内容を工夫して行っていく必要があると思います。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	放課後子供教室推進事業	担当課	生涯活動推進課
事業目的	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回(水曜日と金曜日)実施。水曜日は学習アドバイザーによる学びタイム(ドリル学習など)、金曜日は地域の方々と共に活動するふるさとタイム(スポーツや伝承あそびなど)。 ・事業運営委員会(年2回)及びスタッフ会議(学期ごと)の開催 ・教育委員会ALTとの交流や、県派遣のボランティアの活用 		
29年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・網田小学校を対象に、全校児童93人のうち12人が参加。 ・実施回数全51回(学びタイム26回、ふるさとタイム25回、中止1回) 		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の主体的な活動を円滑に実施するための地域学校協働活動推進員(コーディネーター)や学習アドバイザー・安全管理員等の育成と確保 ・魅力ある事業プログラムの開発、創造 ・放課後児童クラブとの円滑な連携 		
予算額・決算額	H27予算額 659千円 H28予算額 578千円 H29予算額 619千円	H27決算額 517千円 H28決算額 473千円 H29決算額 464千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学期や季節に応じたふるさとタイムを実施し、参加する子どもたちの生き生きとした姿が見られた。 ・地域の大人とのかかわりの中で、感謝する心や物を大切にしている態度など、子どもの豊かな心を育む契機となっている。 ・今後は「地域学校協働活動」の一環として、ボランティアがより一層積極的に関わっていけるよう、支援していきたい。 		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の人材確保は心配ないか。確保に努力してほしい。 ・今後は「維持」と考える。 ・他の学校にも活用できるシステムになると良いのだが。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習アドバイザーやコーディネーターなどの指導者は高齢化しており、体の衰えもあるため、後任者の確保が必要。また、全体のスタッフ数も年々減少しているため、地域スタッフの確保が必要と考える。 ・他の学校に開設するためには、地域の協力は不可欠であり、網田小学校でも地域スタッフの減少傾向の中、スタッフ確保に苦慮している状態であるため、網田小学校の放課後子供教室を維持していくことが、課題である。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	史跡宇土城跡保存整備事業	担当課	文化課
事業目的	史跡宇土城跡は、中世城跡としては県内で最初に国指定史跡となった貴重な文化財であり、恒久的に保存するため適切な維持管理を行うとともに、発掘調査の成果に基づいた整備を実施し、多くの市民の憩いの場や野外博物館的な施設等として生涯学習の拠点とする。加えて、体験発掘やキャスルウォーキングといった市民参加型のイベントを通じ、重要な地域資源としての認知度を向上させ、まちづくりの拠点としても活用することを目的とする。		
事業内容	保存整備工事を昭和56年度より着手。整備のための発掘調査を平成2年度(4次調査)から実施している。城跡東側の西岡神宮北側地区(第1ブロック)及び城の中心をなす千畳敷及び周辺地区(第2ブロック)は、平成18年度までに保存整備を終了し、史跡公園として市民に公開している。また、19年度より三城及び周辺地区(第3ブロック)の保存整備に着手し、一部復元工事を除き25年度までに整備をおおむね完了した。その後、長期計画に位置付けられる貝塚地区・空堀地区(第4・5ブロック)の発掘調査に着手し、調査成果を反映した整備工事を計画している。 なお、本事業は国庫補助金を得て実施している(補助率50%。事業費10,000千円を超える場合は、県の嵩上げ補助5%)。		
29年度の進捗状況	平成28年度に引き続き、熊本地震や豪雨災害による土砂崩れの災害復旧関連業務が中心となった。29年度については、28年度繰越予算分(文化財保護費「6/20～6/21大雨災害対策経費(H28)」で予算執行)の災害復旧工事を実施するとともに、29年度当初予算で三城北側の災害復旧工事に伴う地質調査業務と測量設計業務を行った。なお、復旧工事費については、30年度へ繰越した。		
課題・問題点	平成28年度以降、熊本地震や豪雨災害による被災地点の災害復旧関連業務を優先的に進めており、31年度まで継続する予定である。このため、整備に関する計画が大幅に遅れているが、復旧工事完了後は当初計画通りに事業を進める予定である。 また、史跡指定面積101,613.24㎡のうち、民有地5,762㎡(5.67%)の公有化が実現できていない。史跡整備を予定している範囲にも含まれているので、今後、公有化に向けた取組みを行う必要がある。活用については、宇土城跡の本質的価値について広く情報発信し、市民の理解と関心を更に高めるとともに、地域の宝として利活用されるような取組みを行う必要がある。		
予算額・決算額	H27予算額 4,402千円 H28予算額 2,290千円 H29予算額 212,634千円 (H28繰越分:20,260千円, H29当初分:192,374千円)	H27決算額 4,316千円 H28決算額 1,388千円 H29決算額 31,150千円 (H28繰越分:15,054千円, H29当初分:16,096千円)	
担当課自己評価	災害復旧工事完了後は、平成25年度から着手した第5ブロックの横堀跡の発掘調査を本格的に再開し、その成果を史跡宇土城跡保存整備検討委員会の指導助言を受けて整備工事に反映させる予定である。また、第3ブロックにおける城門跡の復元や、第4・第5ブロックの保存整備工事に着手する等、宇土城跡に対する市民の関心をより一層高め、地域資源として積極的に活用されるような取組みを進めたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・整備事業の進捗を期待します。 ・今後は「維持」と考える。 ・市民の理解と関心を高める取組みが必要である。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震や豪雨災害による土砂崩れの災害復旧工事を早急に行い、復旧後は城郭遺構を適切に保護し、次世代へ継承していくための取組みを進めていく。 ・宇土城跡の本質的な価値について、これまで以上に広く情報発信し、「地域の宝」として活用できるよう市民の理解と関心を高める取組みを積極的に行う。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	市内重要遺跡保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	<p>宇土市には、国指定3件・国登録1件・県指定8件・市指定107件の計119件の指定・登録文化財がある。これらの文化財や現時点で指定されていない遺跡の中には、国・県指定クラスの重要遺跡が存在する。これら重要遺跡を後世に継承していくため適切に管理・保存するとともに、市民に対して調査成果を広く公開する等、積極的な活用が求められている。</p> <p>このことから、市内遺跡の分布調査や発掘調査、出土遺物整理等を実施することにより、国・県指定に向けた様々な要件を整理するとともに、保存計画等を策定して遺跡の活用や恒久的な保存を図る。</p>		
事業内容	<p>周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じて試掘・確認調査を実施している。また、重要遺跡である轟貝塚について、国史跡指定に向けた基礎資料収集のための発掘調査を実施する。その他、各重要遺跡の保存・活用について、今後の保存活用等の方針を検討する宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を開催する(年2回程度)。</p> <p>なお、本事業は国庫補助金を得て実施している(補助率50%)。</p>		
29年度の進捗状況	<p>周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じて試掘・確認調査を実施した。なかでも轟泉水道引込管を対象とした確認調査は、今後、轟泉水道を適切に保存・活用するに当たり良好な資料となり得る。</p> <p>継続して実施している轟貝塚の調査については、平成23～28年度調査の出土遺物整理を行った他、過去に轟貝塚の発掘調査を行った京都大学に赴き、保管されている出土遺物や人骨等の確認作業を行った。</p> <p>また、宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を1回開催したほか、考古学専門の委員から個別に調査指導を受ける等、上記の取り組みについて専門的見地から指導・助言をいただいた。</p>		
課題・問題点	<p>熊本地震以来、開発行為に伴う届出(文化財保護法第93条)や、試掘・確認調査の件数が大幅に増加している。このうち、一定の期間を要する本調査が必要な案件が発生した場合、外部応援などを入れない限り、事業全体の進行に支障が出るおそれがある。天神山古墳等、被災文化財の災害復旧もまた急務であり、進め方によっては事業スケジュールを圧迫する要因となり得る。</p> <p>重要遺跡の調査としては、現在、轟貝塚の国史跡指定を最優先課題として中心的に実施しているが、その分曾畑貝塚や轟泉水道等、他の遺跡に関しては事業がほとんど進んでいない状況にある。また、遺跡詳細分布調査についても、ここ数年は実施できていない。</p>		
予算額・決算額	<p>H27予算額 3,896千円</p> <p>H28予算額 3,282千円</p> <p>H29予算額 3,748千円</p>	<p>H27決算額 3,811千円</p> <p>H28決算額 3,149千円</p> <p>H29決算額 3,666千円</p>	
担当課 自己評価	<p>国史跡指定を目指している轟貝塚・曾畑貝塚について、文化庁や有識者の指導・助言のもと、発掘調査や地質調査等を継続して実施する必要がある。特に轟貝塚については、平成23～28年度調査や大学等が行った過去の調査成果を盛り込んだ調査報告書を刊行し、貝塚の国史跡指定に向けた基礎資料としたい。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の試掘、発掘等と併せて轟泉水道や轟貝塚の再調査の成果を期待します。 ・今後は「維持」と考える。 ・継続した取り組みが大切。市民の理解を得て、取り組んでほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震の影響で増加している開発行為の届出については、今後も必要に応じて試掘・確認調査を行う等適切に対応していく。 ・轟泉水道・轟貝塚・曾畑貝塚については、必要な調査等を行いその成果をまとめた報告書を刊行して国史跡指定への足がかりとする。 ・地域の遺跡や発掘調査の成果等を、説明会や体験発掘などの各種イベントを通じて周知し、市民の興味・理解を深める。また、市広報やホームページ(デジタルミュージアム)等を活用し、積極的な情報発信を行う。 			
教育委員会としての 今後の方向性	<p>拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止</p>		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	小西行長関連事業	担当課	文化課
事業目的	<p>城下町宇土の基礎を築いた宇土城主・小西行長の人物像や国内外での活躍・功績を再評価することによって、史料の掘り起しや新たな地域資源を生み出し、地域の活性化並びに観光の振興を図る。</p> <p>具体的には、小西行長に関連した研究を発表する講演会を継続して開催し、小西行長への理解を一般の方へ深めていただく。また、史料調査を行い、最新の研究成果を「うと学研究」に掲載する等、小西行長の研究拠点として広く情報を発信する。</p>		
事業内容	<p>小西行長に関する最新研究成果を発表する「よみがえる小西行長公」講演会を開催するとともに、小西行長に関する史料の掘り起し及び調査を行う。また、過去に開催した「よみがえる小西行長公」講演会の講演録を刊行する。</p>		
29年度の進捗状況	<p>「よみがえる小西行長公」講演会第13弾(12月2日, 参加者105名)と第14弾(2月10日, 参加者116人)を開催した。また、小西行長関連資料調査(東京)を実施。その他、「うと教育の日」関連事業として、城山公園において宇土小学校の児童に小西行長や宇土城に関する講話を行った。</p>		
課題・問題点	<p>講演会参加者数が微減傾向にあるため、新規参加者を増やす工夫や積極的な情報発信を行う必要がある。また、これまで計20回以上開催してきていることから、テーマ設定が難しくなっているため、参加者のニーズに沿った幅広いテーマの講演会を企画する必要がある。</p> <p>本事業開始以降、全国的に著名な戦国武将・小西行長の研究拠点となるべく事業を継続してきたが、そうなるためには全国に散在する小西行長関連資料の情報集積が不可欠である。今後は、資料調査に係る予算の確保も課題となる。</p> <p>このような講演会に限らず、本市の歴史遺産に関する取組みが観光振興等、他方面に上手くリンクすることができるよう更に工夫する必要がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H27予算額 501千円</p> <p>H28予算額 431千円</p> <p>H29予算額 390千円</p>	<p>H27決算額 410千円</p> <p>H28決算額 303千円</p> <p>H29決算額 142千円</p>	
担当課 自己評価	<p>本講演会は、平成29年度までに計22回開催し、毎回県内外から100人以上の参加があり、宇土市を代表する歴史イベントとして定着しているため、今後も継続して開催することが望ましいと思われる。</p> <p>また、小西行長関連講演会の参加者から講演録の刊行要望が多く、また途中から講演会に参加された方からも過去の講演会のことが知りたいとの要望が寄せられていることから、小西行長顕彰事業の重要な情報発信ツールとして、29年度には23・24年度に開催した講演録『再検証 小西行長』(第3集)を刊行し、全国の研究者や歴史愛好家から注文をいただいている。25年度以降の講演録も引き続き刊行を予定している。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・小西行長関連行事の実施については、広く市民、県民等への啓発活動も必要ではないか？ ・今後は「維持」と考える。 ・今後も継続してほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、講演会の開催を行うとともに、市広報やデジタルミュージアム等を活用した周知に努め、市民・県民への幅広い情報発信を行う。 ・より深く小西行長の人物について知ってもらうために、過去の講演会録の書籍化を継続して行い、小西行長顕彰事業の重要な情報発信ツールとしたい。 			
教育委員会としての 今後の方向性	<p>拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止</p>		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	大太鼓活用事業	担当課	文化課
事業目的	「雨乞い大太鼓」は、日本を代表する民俗文化財の一つであるが、宇土市には、江戸時代から明治時代にかけて製作された雨乞い大太鼓が多数現存している。本事業は、これらの雨乞い大太鼓を活用して、市民の誇りの再生、地域社会における連携の緊密化、市民意識の高揚と産業振興等を図ることを目的としている。		
事業内容	「宇土大太鼓フェスティバル」開催助成(補助金)及び関連業務等の支援を行う。また、宇土雨乞い大太鼓保存会青年部(宇土天響太鼓)の協力を得て、「太鼓教室」を開催し、大太鼓フェスティバルや地蔵まつり等で成果を発表する。		
29年度の進捗状況	「第32回宇土大太鼓フェスティバル」は、「宇土の雨乞い大太鼓」の国重要有形民俗文化財指定後はじめての開催であったが、残念ながら天候不良のため開催できず中止となった(8月5日:台風で順延。10月28日:雨で中止)。太鼓教室の成果発表については、8月23日・24日の地蔵まつりで演奏を披露した(出演は24日)。また、平成30年2月4日に宮庄太鼓保存会が「第2回地域伝統芸能祭」(於:宇土市民会館)に出演した。 その他、革が破けていた締太鼓2基の革張替を行った。		
課題・問題点	大太鼓フェスティバルについては、例年野外(市運動公園)で開催している。真夏の炎天下で準備することや、一部の団体は日中に出演しなければならないことから、開催時期を再検討する必要があるかもしれない。また、これまで看護師等の医療の専門家を配した救護班が配置されていなかったが、このことについても実行委員会で協議したいと考えている。 なお、平成29年3月に国指定となった「宇土の雨乞い大太鼓」については、現在、各地区保存会の所有であるが、今後の大太鼓の修繕や大太鼓収蔵館の設備改修等を見据えて、宇土市がこれらの大太鼓等の管理団体として文化庁から指定を受ける必要がある。		
予算額・決算額	H27予算額 1,191千円 H28予算額 1,273千円 H29予算額 1,303千円	H27決算額 1,106千円 H28決算額 934千円 H29決算額 745千円	
担当課自己評価	「宇土の雨乞い大太鼓」が国重要有形民俗文化財に指定されたことから、市民の太鼓に対する興味・関心がこれまで以上に高まっている。今後も大太鼓フェスティバルや各地区保存会活動等の支援を継続するとともに、太鼓教室も毎年定員をオーバーする希望者があることから、継続して実施していきたい。また、これらの取組みを、市のホームページやフェイスブック等で積極的に発信し、宇土が誇る太鼓文化の普及啓発に努めたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の誇りと活力を養うためにも本事業は必要であると思われる。 ・フェスティバルの開催時期、開催場所、規模について検討する必要があると思います。今後は「維持」と考える。 ・指定を受ける(文化庁から)方向で取組みを継続してほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・大太鼓フェスティバルの開催については、様々な面から課題を検討し、市民の誇りの再生、地域社会における連携の緊密化、市民意識の高揚等の目的に向けて事業のさらなる推進を行う。 ・今後の大太鼓関連事業を円滑に行うため、大太鼓の管理団体として文化庁から宇土市が指定を受け、大太鼓の環境整備に取り組む。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	宇土市歴史的資料保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	宇土市史編纂事業等で収集した歴史的・文化的価値を有する資料を、市民が気軽に利活用できるための環境整備を行うとともに、市民の方々が宇土の歴史・文化により一層興味を持っていただけるよう、これらの資料の持つ価値をPRし、地域活動等につなげていくための事業を実施する。		
事業内容	市史編纂事業で収集した歴史的価値を有する膨大な資料を適切に保存・整理するとともに、郷土資料の収集を積極的に行う。また、収集した資料を専門の見地から調査・研究し、「うと学資料室」等において、市民向けに広く公開し、活用の推進を図る。		
29年度の進捗状況	<p>市民から歴史資料や芸術作品等の寄贈を受け入れた(計8件)。また、本市の歴史研究の成果をまとめた『うと学研究』(第39号)の刊行や「うと学資料室」の利用相談(毎月第2・第4火曜日の午後)、古文書入門講座を開催した(計10回、延べ参加者数207人)。利用相談や古文書入門講座については、利用者・参加者から継続を望む声が寄せられている。</p> <p>また、本市の歴史や文化財の情報を発信するWEBサイト「宇土市デジタルミュージアム」の内容更新を積極的に行った。</p> <p>これらの取組みについて、宇土市歴史的資料保存活用事業運営委員会で報告し、専門の見地から意見をいただいた(10月5日・3月23日)。</p>		
課題・問題点	<p>市史編纂事業等で収集した未整理の歴史的資料が多く残されている。できるだけ早く整理作業を進め、より多くの資料を公開できる環境を整える必要がある。</p> <p>保存期間が終了した行政文書のうち、歴史的に見て特に重要なもの、将来にわたり残すべきものを歴史的な文書として選別し、保管している。これらの歴史的な文書は、現段階では非公開となっているが、将来的には公開・非公開基準を策定し、広く市民に公開できる体制・環境を整える必要がある。</p> <p>また、資料の寄贈件数が年々減少している。個人所有の資料は廃棄される可能性があるため、今後積極的に資料保存に対する啓発を行い、寄贈を促したり、各家で適切に保存していただけるよう周知する必要がある。一方、資料を適切に収蔵・保管する施設が本市には少ないため、今後は空き施設の確保や現行の収蔵環境改善に取り組む必要がある。</p>		
予算額・決算額	H27予算額 4,852千円 H28予算額 3,992千円 H29予算額 4,404千円	H27決算額 3,956千円 H28決算額 2,845千円 H29決算額 3,484千円	
担当課自己評価	<p>平成26年度に開設した「うと学資料室」については、今後も教育委員会の所蔵資料を中心に公開対象資料を増やし、利便性を向上させる必要がある。</p> <p>また、これまで各種講座等を開催し、「うと学資料室」の利用促進及び歴史的資料の活用を図っている。毎回多くの方に参加していただいているが、「市民が自ら学ぶ場」を提供するとともに、幅広いニーズに対応するため、今後も継続して開催する必要がある。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・収集した歴史的な資料の整理と多くの方が利活用できるように広報などにも頑張ってください。 ・大切な事業だと思う。予算額と決算額を見ると年100万円ほど不用額ができています。見方によっては、適正な予算執行がなされていないと思う。対外的に不用額の説明が出来るようになってください。今後は「維持」と考える。 ・今後も継続してほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・『広報うと』に毎月連載中の「うと学だより」や『うと学研究』の刊行を通じ、宇土の貴重な地域資源である文化財や歴史資料について市民の興味を深める。 ・古文書講座等の開催を通じて、市民に古文書や歴史資料の重要性を伝え、資料保存の担い手を育成する。 ・歴史的資料・歴史的な文書について、広く市民に公開できる体制・環境を整えるとともに、資料を適切に収蔵・保管できる施設の確保について検討する。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	図書館蔵書充実事業	担当課	図書館
事業目的	市民の知識・学習の拠点として、図書館蔵書の充実を図ることにより、市民サービスの向上を目指す。併せて、元気な宇土市づくりに貢献する。		
事業内容	年間を通じて、図書の購入を行い、蔵書及びサービスの充実を図る。		
29年度の進捗状況	平成29年度の図書購入費は395万円。平成29年度中の購入冊数は2,433冊。		
課題・問題点	今年度において耐震改修工事を行うため、蔵書を配架するためのスペースが減少する可能性がある。そのため、限られたスペースのなかで市民が蔵書を検索できるよう、書架の配置を研究し、蔵書及びサービスの充実を図ることが必要である。また、配架している蔵書の老朽化も進んでおり、市民のニーズに応じた適切な図書購入を行う必要がある。		
予算額・決算額	H27予算額 4,000千円 H28予算額 4,500千円 H29予算額 4,000千円	H27決算額 4,000千円 H28決算額 4,500千円 H29決算額 3,952千円	
担当課 自己評価	予算の範囲内での活動は出来ているが、より多くの市民が利用していただくよう、市民の利用状況を分析し、ニーズの高い資料を揃えていく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備、市民サービス等の面から震災の影響で不便さを感じる。蔵書率の向上にも努めて欲しい。 ・子供たち、小中学生も、もっと利用できる場所、行きやすい交通手段など紹介を行えば、更に興味・関心が出てくるのではと思った。 ・今後は「維持」と考える。 ・蔵書及びサービスの充実に努力していくべきである。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>外部評価委員から頂いた意見をもとに、図書利用者が望む図書資料を揃えることができるよう、工夫していきたい。また、図書資料を定期的に確認・点検し、適切な維持管理に努めたい。</p> <p>子供たちにも分かりやすい資料情報やアクセスなどの周知方法を研究し、親しみやすい空間づくりを行いたい。</p>			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実に継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	給食センター施設整備事業	担当課	給食センター
事業目的	施設整備の点検を行い、年次計画的に優先度を決め、衛生管理の徹底や給食業務の充実を図るため、施設整備を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒保管機購入 ・和え物冷蔵庫購入 ・調理室照明器具LED取換え 		
29年度の進捗状況	・調理室床工事を除き、予定どおり実施。		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・施設は築年数39年を超過し、老朽化が進んでおり更なる整備が必要である。 ・設備も使用頻度が高く、損傷や破損が出ている。 		
予算額・決算額	H27予算額 49,163千円 H28予算額 3,857千円 H29予算額 38,366千円	H27決算額 44,164千円 H28決算額 1,105千円 H29決算額 28,247千円	
担当課 自己評価	平成29年度においては調理室床工事が入札不調により実施できなかったが、それ以外は予定どおり実施できた。平成30年度以降は調理室の整備をはじめ優先度を決め、年次的に整備が行えるようにしたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・適切な年次計画に従って施設整備がなされることを望みます。 ・年次計画により整備を進めて頂きたい。今後は「維持」と考える。 ・給食業務の充実を図るため、施設の充実は必要と思う。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
給食センターの施設は築40年を超過しており、老朽化が進んでいるが、学校給食法の規定による衛生管理基準等に適合していくために、今後も施設及び設備の維持・管理を継続して行っていく。なお、施設整備・修繕等は優先度を考慮して計画的に進めて行く。			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

平成30年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域教育力活性化事業	担当課	中央公民館
事業目的	<p>少子高齢化、情報社会等、子供を取り巻く地域の新たな教育課題に対応し、地域において人間性豊かな子供を育てる環境を充実させるため、各公民館を軸として地域の人的物的教育資源等を活用しながら、週末等に様々な体験活動を実施し、地域教育力の活性化を図る。</p>		
事業内容	<p>・各地区公民館で芋の苗植え、収穫等の農業体験、マテ貝掘り、竹細工、昔遊び、料理教室、環境学習、施設見学、読み聞かせ等を実施。計46回 延1,979人(内支援者750人) ・3泊4日の通学合宿(網田、緑川、走瀧)実施。参加者58人(網津は中止) ・公民館子ども祭り 荒天のため中止</p>		
29年度の進捗状況	<p>地域住民の支援による様々な体験活動の実践を通して、異年齢の子供たちの交流や地域住民等の交流が図られ、心豊かな子供たちの育成につなげることができた。支援者の皆様にも「地域の子供は地域で育てる」という気運を高めている。</p>		
課題・問題点	<p>課題としては、少子化とともに、4年生以上になるとスポーツクラブ等で子どもの参加が少なくなり、低学年を中心としたプログラムには限りがある。また、地区によっては参加児童の増加が見られるため、継続して、地域の特色を取り入れたより魅力的な活動を推進していく必要がある。</p>		
予算額・決算額	H27予算額 943千円 H28予算額 788千円 H29予算額 786千円	H27決算額 555千円 H28決算額 388千円 H29決算額 442千円	
担当課自己評価	<p>少子化・情報社会にあって、子供の姿を地域で見かけなくなり、異年齢集団での遊びや地域の自然を生かした体験活動が激減している中、地域の人を巻き込みながら、子供たちの体験活動の場を提供することは、地域において人間性豊かな子供を育てる環境整備の柱となっている。また、高齢者の生きがいづくりにも寄与しており、「地域の子供は、地域で育てる」という気運を高めている。さらに、地域そのものの絆が薄れている中、子供を中心とした地域活動は、ますます重要な位置づけとなる。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<p>・これまでの部活動が学校活動から社会クラブ活動になるようで今後は高学年の児童も本事業に参加することが多くなるかもしれません。ますます充実するものと期待します。 ・とても意義がある事業だと考える。今後は「維持」と考える。 ・外で遊ぶ子ども達の姿が年々減ってきているように感じる。クラブに入っている子だとなかなか参加が難しいと思うが、何かの機会に参加できることを願う。 ・地域教育力活性化事業の充実を図るため、人材育成及び活用は重要である。</p>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>本事業は、公民館を軸として、学校以外での子どもたちの協調性等づくり、また、「地域の子供は地域で育てる」気風をつくるためにも、地域の様々な団体の参画を得て行い、地域のコミュニケーションや子供の居場所づくりとして重要な事業である。今後も、本事業を経験した青年層の人たちの参加など、より多くの地域住民を巻き込んだ活動を継続して実施する。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 委員会議の開催状況

宇土市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催しています。

この会議において、教育長と教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けています。

平成29年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりです。

期日	場所	付議事件
平成29年4月12日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	<p>(議決事項)</p> <p>平成29年度宇土市学校教育努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市幼稚園教育努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市生涯学習努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市人権教育推進努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市文化振興努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市立図書館努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市社会体育努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市学校給食センター努力目標について</p> <p>平成29年度宇土市立小中学校教務主任等の任命について</p> <p>平成29年度学校評議員の委嘱について</p> <p>平成29年度幼稚園評議員の委嘱について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>平成28年度宇土市一般会計補正予算(6月)について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>平成29年度宇土市一般会計補正予算(6月)について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>教育支援委員会にかかる就学答申について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市学校教育指導員の委嘱について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市学校特別支援教育相談員の委嘱について</p> <p>教育功労者の表彰について</p> <p>スポーツ功労者の表彰について</p>
平成29年5月9日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	<p>(議決事項)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(花園小)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(走潟小)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(緑川小)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(網津小)</p>

		<p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について（住吉中）</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について（網田小・網田中）</p> <p>平成29年度宇土市入学準備祝金採用者の選考について</p> <p>宇土市社会教育委員の委嘱について</p> <p>宇土市公民館運営審議会委員の委嘱について</p> <p>宇土市立図書館協議会委員の任命について</p> <p>平成29年度「宇土市小中一貫教育推進に関する実践研究校」の指定について</p>
平成29年6月12日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市立幼稚園の保育料減免に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市立幼稚園の保育料に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>宇土市教育支援委員の委嘱について</p> <p>宇土市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について</p> <p>平成29年度宇土市一般会計補正予算（6月）について</p>
平成29年7月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>なし</p>
平成29年8月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>平成30年度使用宇土市立中学校教科用図書の採択について</p> <p>宇土市公民館条例施行規則の一部を改正する規則について</p>
平成29年9月13日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>宇土市歴史的資料保存活用事業運営委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市食物アレルギー対応委員会委員の委嘱について</p> <p>平成29年度宇土市一般会計補正予算（9月）について</p>
平成29年10月11日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会答申について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会答申について</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会（第1回、第2回及び第1回臨時会）にかかる就学答申について</p>
平成29年11月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会（第2回臨時会）にかかる就学答申について</p>

		<p>宇土市教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市学校給食センター専門委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市社会体育施設指定管理者の指定について</p> <p>平成29年度宇土市一般会計補正予算（12月）について</p> <p>平成29年度宇土市入学準備祝金特別会計補正予算について</p>
平成29年12月11日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会（第3回臨時会）にかかる就学答申について</p> <p>宇土市教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果について</p>
平成30年1月13日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>宇土市小中一貫教育推進計画（素案）について</p> <p>宇土市民会館指定管理者運営評価委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について</p>
平成30年2月14日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>児童・生徒の表彰について</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会（第4回臨時会）にかかる就学答申について</p> <p>宇土市武道館条例の一部を改正する条例について</p> <p>宇土市スポーツ推進審議会委員の任命及び解任について</p> <p>平成29年度宇土市一般会計補正予算（3月）について</p> <p>平成30年度宇土市一般会計予算について</p> <p>平成30年度宇土市入学準備祝金給付基金特別会計予算について</p>
平成30年3月12日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>平成30年度宇土市立学校内科医，眼科医，耳鼻科医，歯科医及び薬剤師の委嘱について</p> <p>平成30年度学校産業医の委嘱について</p> <p>平成30年度宇土市学校教育指導員の委嘱について</p> <p>平成30年度宇土市特別支援教育相談員の委嘱について</p> <p>宇土市社会教育指導員の委嘱について</p> <p>宇土市青少年センター指導員の任命について</p> <p>宇土市公民館指導員の委嘱について</p> <p>宇土市地区公民館長の任命について</p> <p>学校給食センター給食用物資納入業者の選定について</p> <p>平成29年度宇土市教育支援委員会（第5回臨時会）にかかる就学答申について</p>

2 総合教育会議

期日	場所	協議事項等
平成29年10月19日	市役所別館 2階来賓室	(協議事項) 地域学校協働活動及び地域学校協働本部について 学校における働き方改革について
平成30年3月5日	市役所別館 2階会議室	(協議事項) 網田学童クラブについて (放課後等における学校施設の利用対応等)

3 その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議、関係行事へ出席するなどしています。

平成29年度における、その主な活動は次のとおりです。

- ・宇城市町教育委員全員研修会
- ・教育委員行政視察研修
- ・熊本県市町村教育委員大会
- ・学校訪問
- ・各小中学校入学式・卒業式
- ・各幼稚園運動会・各小学校運動会・各中学校体育祭
- ・成人式典
- ・学校給食試食会
- ・その他各種イベント事業への出席

【宇土市教育委員会委員名簿】

(平成30年10月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	おおた やすゆき 太田 耕幸	平成30. 10. 1～平成33. 9. 30
委員長職務代理者	いわむら としあき 岩村 敏明	平成28. 12. 24～平成31. 9. 30
委 員	こんどう おさむ 近藤 修	平成28. 12. 24～平成32. 9. 30
委 員	そのだ ひろこ 園田 寛子	平成29. 10. 15～平成33. 9. 30
委 員	あくたがわ まなぶ 芥川 学	平成30. 10. 1～平成34. 9. 30